

Relation **医療連携**
をめざして
～近隣医師会からメッセージ～

今回の
ご登場は



目黒区医師会
清水 嘉一

院長のフットワークの軽さ、そして...

“ 広報誌「もしもし」への寄稿を ”とのご依頼で、“ 参考に ”と送っていただいた「もしもし」を初めて拝見いたしました。なんと立派で、内容も豊富、読んでいるうちに、今日は自分の原稿を書く時間がなくなってしまいました。

NTT東日本関東病院の私なりの印象は、落合院長のフットワークの軽いこと。他の病院長とは比べられません。紹介病院を患者さんと選ぶとき、「NTTは？」と聞くと、最初は少し、近くなく意外なのか、間があきますが、すぐに「ああ、はいはい」と答え、私も「よし、そうしよう」と大きな声で言えること。あの庭園の素晴らしいこと。本当に庭園らしく、大いに心の安らぎを与えることでしょう。目黒区役所庁舎とは比べものにはなりません。悪口ではなく、区民としての反省です。そして、当然、NTTですからITのインフラは日本一。

医療資源・財産の「分化と共同」

さて、本題の医療連携ですが、とかく掛け声ばかり大きくて、どうも内容がいまひとつと感じて

います。医師と医師との個人的なつながりという旧態は跡形もないほどで、良く診ていただいた、早く診ていただいたという時代ではなくなったことは発展であるに違いありませんが、もう一步。それは、事務局からいただいた書類に見事に集約されています。おっしゃる通り、「コラボレーション医療」だと、私も思います。我々と病院の持っている医療資源・財産の「分化と共同」こそが、医療連携の真髄、進むべき道と感じています。

連携クリニカルパスの完成めざして

例えば、がん患者が見つかった。病院に手術を依頼する。手術が終わって安定状態になったら、定期診察は元の医者に戻す。そして、3ヶ月に一度くらい、血液とCTの検査をする。CTは区内の中小病院に依頼する。6ヶ月に一度くらい、データを持って手術を受けた病院に行く。必要な検査をして、病院のデータはまた、元の医者にも伝える。「連携診療手帳」のようなものを作成して情報を共有する。

こうして、ある病院のような、「CTの予約が4～5ヶ月先」などということのないように、また、病院の先生は病院でしかできない医療に専念する。まさに、皆さんがおっしゃる「分化と共同」であり、こういう関係を「連携クリニカルパス」に完成させられたらと願っています。

他の会長先生のような、医師会の紹介をさせていただきスペースがなくなりましたが、ホームページでよろしく。

紹介する我々にも、される患者さん、される病院も共に幸せ感を共有できますように、NTT東日本関東病院のご発展を心よりお祈りいたしております。

目黒区医師会ホームページ

<http://www.mki.co.jp/meguroMA/>



イベントレポート

心配です、メタボリック・シンドローム
～もしもし医学セミナー、大盛況!!～



今回は「メタボリック・シンドローム」をテーマに東京医科大学、内科学第三講座の小田原主任教授をお迎えし開催しました。

あいにくの雨にもかかわらず、150名を超すお客様にお越しいただき、準備した椅子席もいっぱいになりました。

小田原先生は「なぜ内臓に脂肪がつくと危ないか」を、国内外の豊富なデータを基にわかりやすい言葉と図、イラストで説明。身近な生活習慣病がテーマのため話も多岐に渡り、熱い語り口に予定の時間をオーバーしましたが、無理にお願いいくつか質問にもお答えいただきました。

第二部は当院ドック受検者における「メタボリック・シンドローム」の現状と、人間ドックではどんなことを行うのかを、予防医学センターの郡司、佐々部両医師が画像を交え説明しました。また、当院栄養士が「予防のためにはどんな食メ

迫力のオーケストラと美しい歌声で
～恒例のクリスマスコンサート開催～



2006年もあと10日あまり、という12月20日の夕刻、恒例の「クリスマスコンサート」が行われました。演奏してくれたのは昨年の「全日本吹奏楽コンクール」で見事金賞を受賞した「NTT東日本東京吹奏楽団」の皆さんです。

18時30分からウェルカムミュージックが始まり、ご家族と一緒に患者さん、ボランティアに付き添われた車椅子の患者さんなどが降りて来られました。コンサート開始の19時には220用意した椅子席がほとんど埋まり、2階の通路でも多くの患者さんがお聴きくださいました。

「Winter Wonderland」と名付けられた賑やかで楽しいクリスマスソングメドレーでオープン。落合院長の挨拶の後、モーツァルト生誕250年ということでモーツァルトメドレー、荒川静香さんで一躍有名になった「トゥーランドット」、続いて映画「パイレーツ・オブ・カリビアン」のテーマとメ

事をすればいいの？」について話し、最後は運動に関して首都圏健康管理センターのトレーナーが実技を交え、正しいウォーキングやストレッチを行いました。講演の前後では予防医学センターの看護師による血圧や身長体重、体脂肪、正しい腹囲の測定などが行われ、開始時間までに間に合うのかと事務局も心配するほど長蛇の列でご好評をいただきました。

放置すれば恐い結果を招く「メタボリック・シンドローム」も日頃の食事、運動のちょっとした心遣いや簡単な測定で予防・チェックできるというのが皆さんにご理解いただけたのではないのでしょうか。時代は今、「治療」から「予防」へ。参加された皆様もそう感じられたのではないかと思います。

次回は6月頃開催する予定です。どうぞ皆様お誘いあわせの上ご参加ください。



フルオーケストラ生演奏のすごい迫力に感動しつつプログラムは進みました。その後はNTT合唱団の皆さんによるクリスマスソングが透明な美しい歌声で響きます。歌に合わせて身体を揺らし聴きいっている患者さんもうらやいました。そして今回が最後になってしまいましたが附属看護学院生によるメチャクチャ元気で楽しいダンス。赤いサンタの衣装が手拍子に乗って飛び跳ね、見ているだけで元気が出てきます。最後は再び吹奏楽団により「ラブソディ・イン・ブルー」が演奏され、アンコールは「サーカス・ビー」、会場全体が手拍子でひとつになりました。

今回はオーケストラ、合唱、ダンスと盛り沢山の内容でした。入院されている患者さんに少しでも楽しみにしていただければ、と行っているイベントです。これからも吹奏楽団の皆さんのご協力をいただき続けていきたいと思ひます。



編集後記 前号で災害時や緊急事態に対応できる体制について掲載しました。私たちは、備えを万全に整え、万が一のときにすばやく対応できるように努力しています。そのような備えを使わなくても良いような平和な一年になることを願っております。そして皆様の健康な生活を支えられる病院でありたいと思ひます。本年もよろしくお祈りいたします。

院外広報誌 編集委員 木下 佳子